

令和5年2月3日

株式会社スカパー・エンターテイメント  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社

### ナショナル ジオグラフィック 番組審議会議事録

- ・日時 令和4年12月13日(火)17:00～
- ・開催場所 東京都港区虎ノ門 1-23-1  
ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社 27階会議室
- ・参加者 審議委員総数 9名  
出席委員数 8名  
書面参加委員数 1名

#### (出席委員名)

- 委員長 村川 幹夫 ((株)オリコン ME WEB 編集本部 執行役員／編集長)
- 副委員長 藤田 興彦 (公益法人児童育成協会参事)
- 委員 堀越 礼子 ((株)朝日新聞社 取締役)
- 委員 名越 康文 (精神科医・評論家)
- 委員 清水 優子 (ナレーター・キャスター・(有)タイムリーオフィス代表)
- 委員 太田 美千子 ((株)講談社 MOVE・ディズニーファン事業部 部長)
- 委員 須貝 駿貴 (学術博士・QuizKnock)
- 委員 吉田 千佳 (YouTuber)

#### (書面参加委員名)

- 委員 パトリック・ハーラン (タレント・大学講師)

#### (番組供給事業者側 参加者：ウォルト・ディズニー・ジャパン株式会社)

- 小林 信一 (バイスプレジデント  
パートナーシップ ディズニープラス&チャンネル)
- 小峰 利憲 (ディレクター ファイナンス&プランニング)
- 伊藤 由起 (編成 ディレクター)
- 佐藤 康平 (編成 アシスタント・マネージャー)
- 待鳥 雅之 (編成 アシスタント・マネージャー)
- 中台 朋子 (編成 スケジューラー)
- 田内 恵美子 (編成 スケジューラー)

- ・議題 (1) ナショナル ジオグラフィックの番組編成について  
(2) 審議番『暴露！ビンラディンのハードドライブ』について

- ・議事内容

(以下、\* : 委員からの意見・質問、→ : ディズニーの説明・回答)

### (1) ナショナル ジオグラフィックの番組編成について

→新番組・新シーズンとして『密着！空港警察：ローマ』『ヨーロッパ空中散歩 3』『サバイバル・ライフ in アラスカ』『特選：スクープ！ドラッグと欲望の世界』などが、今月からスタート。

→特別編成は下記の通り：

- ・『真珠湾攻撃：あの日あの時』 12月7日（水）20:00-25:00。
- ・『特集：年末は空の上からヨーロッパ旅行』 12/29（金）～12/31（日）20:00～24:00  
（※12/31は23:00まで）。
- ・『年末もポール先生にお任せ！スゴ腕どうぶつドクター9 全話一挙放送』  
12/29（木）・12/30（金）10:00～20:00。
- ・『密着！世界の空港警察シリーズ 一挙放送』12/30（金）24:00～12/31（土）20:00。
- ・『最新シーズン開始直前！カー・SOS 全90話 一挙放送』  
12/31（土）25:00～1/4（水）19:00。

### (2) 審議番組『暴露！ビンラディンのハードドライブ』について

- ・放送概要：

→2022年9月11日(日) 22:00～23:00 (初回放送)

約60分×1本

- ・番組内容：

2011年5月2日、オサマ・ビンラディンが殺害されたアボタバードの隠れ家からパソコンのハードドライブが回収された。そこには多数の動画や写真、音声ファイル、文書のデータが残されていた。CIAのプロファイラー、犯罪心理学者、軍事専門家の協力のもと、47万個にもものぼるファイルを調べ、謎に包まれた大量殺人犯の本性に迫る。彼のテロリストらしくない性格、家族との関係、宗教観、彼が残した暴力と破壊の遺産とは…。

→この番組は、9.11事件に関連する5つの番組を、14:00から計9時間に及ぶ特別編成を組んだ中で放送されたもので、その特別編成のアンカーとして、9月11日の22:00に初

放送された番組。

→謎に包まれたオサマ・ビンラディンの本性に迫った作品ということ、そして9.11事件が起きた日に日本初放送ということもあり、視聴者の興味を強く引くことができた良作で、総合視聴率0.25%という非常に高い視聴率を獲得した。

\*ナショナル ジオグラフィックは、毎回見たことのない映像がたくさん出てきて掘り下げてくれる。

\*ビンラディンの名前はよく聞くが、実態を知らない人物で、ハードドライブとの組み合わせが、どう結びつくのか興味をそそられた。

\*どこでどう撮っているか分からないが、見たことのない映像に驚いた。

\*米大統領という大国のリーダーが殺害報告することは初だと思うので、そういった映像が冒頭にあり、引き込まれる作りになっている。

\*CIA、FBIなど実際に携わった人が多く証言するという掘り下げ具合と、本人の心まで入り込む編集がすごい。

\*家庭内では良い父親という面がありながら妻子を利用する様子を暴いており、見たことのない映像と証言で迫っていく作りは、日本には無いパワーがある。日本における情報の扱いや深層に迫る力の弱さを感じた。

\*冒頭を見て9.11事件の作戦の裏側が分かるのかと期待したので、正直、物足りなさを感じる内容だった。

\*題名を見て、どこまで掘り下げているのか期待感があった。

\*証言と事実を積み重ねて深く入っていく作りだった。日常生活も映されており、彼がやった(冷酷な)ことと日常との対比が描かれ、迫ってくる恐ろしさがあり、ドキュメンタリーとして優れた作品だと思う。

\*殺戮者として彼の残したものがまだ生きているというメッセージを受け取れた。

\*9.11事件の裏がどうだったのかという疑問は残る。

\*ハードドライブの中身が見られたので、番組タイトルと内容に大きな乖離があるとは思わない。

\*タイミングとして、9.11事件から20年、彼の死去から10年なので、ひどく傷つく人はいないだろうという点から、配慮は感じられた。

\*イスラム教徒への配慮が最大限なされていて、そのための番組と感じた。解説員として、ムスリムの女性が登場したのが良かった。

\*「イスラム国」という表現が出てきたが、はたしてこの日本語訳が適切なのか疑問に思う。日本において適切な訳語が見つからないのは分かるが、イスラムへの友好的な思いを示すというメッセージにそぐわない日本語訳が出てきたようにも感じた。

\*暇を持て余した子供が牛を虐待するシーンがあったが、子供による残虐遊びは特別なことではないし、それが「洗脳によるもの」と見せる構成には疑問を感じる。大人の教養としてはいいが、教育的ではない。教育的である必要はないかもしれないが…。

- \*イスラム教への配慮がメインなのかもしれないと思って見た。
- \*ヒジャブを着けている人など、日本ではあまり巡り合わない方が出ていて“一緒ではない”という感覚を持てる。
- \*最近ちょっとしたメディアなどで固定観念ができてしまうが、少し演出された、完璧ではないものだとしても、こういったドキュメンタリーを見るのは大事だと思う。
- \*「人の人生はハードドライブにある」という表現は分かりやすい。
- \*ライトな感じで見て、「そうなんだ…」と納得するには良い。
- \*思想誘導は、ドキュメンタリーがかつて担っていた役割だが、今は SNS に移っており、分かりやすいグラデーションで興味深い。
- \*18歳と16歳の子供と一緒に見たが、世代により受け取り方が違うと感じたので、どういう風に感じたか、他の人の意見も聞いてみたい作品。
- \*子供の残虐性については、自分の子供も「それは誰しも持っているもの」だと言っていたので、残虐性の解釈が一面的に思えた。
- \*証言した人物により視点・解釈・受け取り方が違うので、資料だけでは限界があるということ突き付けられた。その意味で、「暴露」というタイトルには若干違和感があり、演出なのかなとも思った。
- \*「世界の子供たちに戦いを望ませない。幸せな社会の築き方を教える方が難しい」という戦友の言葉が心に残った。これを聞くと、子供が1つのテーマだったのではないかと思えた。
- \*高校生の子供から「ビンラディンの本性に迫るテーマだったが、なぜこうなったのか考えるよりも社会的な意味を考える方が大事」という感想を聞き、若い世代の考えから気付きを得た。
- \*とても面白く、楽しませてもらった。
- \*ビンラディンのビデオメッセージの NG シーンなど、ホームビデオっぽい映像が印象的で、少し可愛いとさえ思える瞬間もあり、彼の行動を覗いているかのようなドキドキ感もあるが、次の場面で、これは「大量殺人鬼」「世界のテロリスト」の家庭の中であることを思い出すと、少し気持ち悪さも覚える。
- \*アダルト動画が大量に見つかったというのも面白かったが、「ポルノの写真を暗号として使っていたかも」という説明が、あまりに都合よすぎる。もちろん、それゆえに彼の気持ち悪さが倍増する。
- \*この映像を見て、ビンラディンのせいで彼の家族が難民生活を余儀なくされるひどさに、少し驚いた部分もある。
- \*以前からビンラディンの資料が大量に押収されたことは知っていたが、この形でそのコンテンツを見ながら、その意味の解説も聞いたことで、初めてその資料の中身だけではなく、ビンラディンの生活や心理まで理解できた気がする。
- \*宗教的な解説も、とても分かりやすかった。

- \* バランスが取れているとは言いづらいが、報道エンターテインメントという種類の番組として、十分許容範囲だろう。
  - \* 妻に声明文の校正させたということから、専門的に言うと「異性に心を明かしやすい人」という見方ができ、とても興味深い。
  - \* 9.11 事件は感情抜きに分析はできない。日本は 9.11 事件の当事者ではないので、前半 30 分は無理やりイデオロギーに押し込めようとしていて、彼は残虐で冷酷なやつだと思える。ある程度の型にはめ込んでから分析しないとビンラディンを理解できない中で、後半 15 分で親友が登場し「自分も分からない」と言ったことが、逆に深く彼を知っていると感じた。
  - \* 「宗教において戦争を起こしてはいけない」という言葉には反発を覚えた。実際、宗教によって人は殺されている。でも一方で、宗教は重要で否定もできない。この点については、少しこだわって見てしまった。この辺りはあと 50 年も経てば冷静な分析が出てくるように思う。湧きあがった感情が沈殿するまで時間が掛かることも興味深い。アンバランスさ自体がすごくリアルで、本気で挑んだ作品だと思った。
  - \* バランスの部分についていうと、ドキュメンタリーというのは誘導する側面があるのかなと思う。
  - \* 9.11 事件の内情を知れる作品ではないが、ビンラディンの素性或本人の内面を明かすという面では、貴重な資料を見られたと感じる。
  - \* イスラム圏への配慮はあったが、形式的なものなのではないかと思った。
  - \* アメリカには被害者的側面はあると思うが、アフガニスタン侵攻への抵抗を支援したのはアメリカなので、ある意味、アメリカがビンラディンを作ったとも言える。そういった面からすると、諸悪の根源として描くのは公平さに欠けるともいえる。バランスとしては贖罪的な側面もほしかった。だが、作品としては非常に面白かった。
  - \* 意外な温厚さと、知性と理性を兼ね備えた側面で彼の魅力を見せつつ、独裁者などが凶行に及ぶ理由となる強烈なナルシズムも見せている。誰にでもビンラディンになりうるという他人事ではない怖さが感じられる貴重な映像作品。
- 9.11 事件に関連した作品は今後も制作されていくことから、来年の 9 月 11 日にも特集を組む予定でいる。何年経ったとしても、こういう事件があったことを知っておくべきという意味で、これからも関連作品やその他の過去作品なども併せて並べながら、特別編成を組んでいきたいところ。

- **審議機関の答申又は改善意見に対してとった措置その年月日：**

今回の審議会に出された意見については、審議会が開かれた令和4年12月以降、各番組のプロデューサー、担当者へのフィードバックをはじめ、番組制作会議等で活用し、さらなる番組の向上のために適切な措置を講じるよう努めていく。

- **審議機関の答申又は意見の概要を公表した場合におけるその公表の内容、方法、及び年月日：**

令和5年2月以降に、ホームページに審議会概要を掲載、公表する予定。

以上

